

ユニット名	ひのき
-------	-----

施設長	主査	作成UL

行動計画表

区分	項目	ねらい	手順	具体的行動計画(実践するために何をやるか)				実施結果と今後の展望	
				だれが	誰に対して	何を	どのように		
1 個別ケアの 基本について	1. 老人福祉法第33条を理解してケアを行っている。	・スタッフ一人ひとりが同じ意識を持ち、その方に合ったサービスを提供することができる。	説明 実行 評価	UL UL UL UL	SW CW UL CW UL CW UL CW	第33条・経営理念の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年度ユニット運営計画書について、この項目の説明を行う。</li> <li>ユニット会議にて第33条、経営理念を復唱し、意味を理解する。</li> <li>日々のケアの中で経営理念・第33条に沿い判断・行動して支援をする。</li> <li>問題が起こった場合には会議で経営理念・第33条に沿いケアができていたかを確認する。</li> </ul>	H31.4.30 毎月ユニット会議にて	
	5. 法人理念や施設の方針は、分かりやすいもので職員に徹底している。	・経営理念を理解し意識することで、地域に信頼される質の高いケアを行うことができる。		UL CW	CW		<ul style="list-style-type: none"> <li>問題点があれば会議で話し合い、改善していく。</li> </ul>		
	2. 24時間シートを作成している。	2.24時間シートを活用することにより、自宅での生活と継続した暮らしになるよう支援することができる。	説明 実行 評価	UL UL UL UL UL	SW CW UL CW CW CW UL CW	24時間シートの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年度ユニット運営計画書について、この項目の説明を行う。</li> <li>日常の状態変化等を赤ペンで24時間シートに記入する。</li> <li>毎月のモニタリングで状態変化した箇所や注意事項を発信し共有する。</li> <li>担当者はモニタリングで共有した事項を訂正し更新する。</li> <li>24時間シートを活用し支援することで、自宅との生活と連続でき、生活の質を上げる支援に繋がる。</li> </ul>	H31.4.31 毎月ユニット会議にて	
2 入居者が自分の 住まいと思える ために	14. ユニットの超えた入居者が集まり趣味活動やサークル活動などが行われる場を用意する。	・自分の趣味を活かせる場や、興味を持つことができ、交流の機会を作る。	説明 実行	UL CW UL	SW CW CW CW	活動参加の場をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年度ユニット運営計画書について、この項目の説明を行う。</li> <li>利用者にどのような趣味活動をしたいかを聞き取る。</li> <li>事前に行える日程やその日の担当者を決め実施する。(掲示板等で記載し予告をし必要なものは購入する)</li> <li>CWと意見を出し合い他に実施できることがあれば検討し実施していく。</li> </ul>	H31.4.31	
	11 リビングから個室(共同生活室)が丸見えだったり、本人の意向を無視してドアを開けっ放しにしてプライバシーが確保されないようにしていない。	・個人のプライバシーを守り、安心して過ごせる場を作る。	説明 検討 実行 評価	UL CW CW UL	SW CW CW CW CW	プライバシーを守る工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年度ユニット運営計画書について、この項目の説明を行う。</li> <li>リビング前の居室の目隠しになるようなものや工夫があれば意見を出し合い検討する。(歩行の妨げにならない様にする)</li> <li>購入するものがあればユニット費を使用し、購入し個々のプライバシーが守られるような工夫をする。</li> <li>改善点などがあれば意見を出し合い改善していく。</li> </ul>	H31.4.31 H32.3.31	
	15. 利用者自ら自由にお茶を飲むことができるように、リビングに急須や湯呑みを用意している。	・水分摂取量の向上や、自宅での生活同様になるように環境を作る。	説明 検討 実行 評価	UL UL CW CW UL	SW CW CW CW CW CW	水分摂取量の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年度ユニット運営計画書について、この項目の説明を行う。</li> <li>利用者が安全に使用できるポット(倒れても中の水分が溢れない、重すぎない物)の購入を検討する。又、お茶の熱さが違うポットを2種類用意しその方の好みに合ったものを飲んで頂く。) <ul style="list-style-type: none"> <li>実施前に水分制限のある利用者を確認し共有する。</li> <li>実施後、どのくらい水分量が伸びたのかを記録し残し、改善点は改善していく。</li> </ul> </li> <li>水分をあまり摂取されない利用者の方には、今後どのように対応していくのかを検討していく。</li> </ul>	H31.4.31 H32.3.31	

行 動 計 画 表

区分	項目	ねらい	手順	具体的行動計画(実践をするために何をするか)				いつまでに	実施結果と今後の展望
				だれが	誰に対して	何を	どのように		
その他2	その他2	介護機器(リフト浴)を活用することで、利用者の安全や負担の軽減を確保するとともに、スタッフの腰痛防止や労災の防止など介護に対する身体への負担の軽減に努める。	説明	UL CW	SW CW	・個別の安全・安楽な入浴方法	・新しいCWに対して介護機器(リフト用浴)の操作方法や管理方法などを実際に説明する。		
			検討	CW	SW UL CW	・モニタリング場において、リフト対象者の確認や、状態に変化があった利用者の入浴方法を検討し、24時間シートに入浴方法を記載する。			
			実行	CW		・実際の業務で24時間シートに沿った入浴方法で使用し、課題や問題などを発掘する。			
			評価	UL	SW	・使用中にトラブルが発生した場合、直属の上司に報告する。			
				CW	UL	・ユニット会議で課題やトラブルに対して議論し改善案を決定する。			
				UL	CW	・実施した結果、安全・安楽方法について個別の24時間シートに内容を記載する。			
				CW	CW	・実際に使用した結果、職員・利用者にとってのメリットやデメリット、介護機器(リフト浴)導入前と導入後の結果をまとめて管理者へ報告する。			
			評価	UL CW	SW		H32.3.31		